

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
<TEL>0176-62-5858 <FAX>0176-62-5860
<e-mail> takayamamuseum@ruby.plala.or.jp



■「少年の日の仏陀」(キャンバス・油彩、1947年、第32回二科展出品)と、新婚時代の鷹山宇一ご夫妻■

「少年の日の仏陀」

「絵描きでは飯は喰えない」と言っていた父は、長い間独り暮らしをしていた。

そんな父が母と巡り会ったのは、昭和22年の春で、翌年7月に結婚式を挙げている。

戦後の混沌とした時代は、死別した家族を愛惜^{いとお}しむ時間はおろか、今日一日をただ生きるだけの“糧”しか与えていなかったの

である。それでも焼け野原になった東京には、疎開や外地にいた人々が戻り、バラック家の窓から笑い声が聞こえ、闇市には買い物客が溢れ出した。

新生日本への出航が始まった。しかし、家族、財産、仕事など生きるすべを失った者にとつて「希望」とはいったい何だったのか。

絶望と不安が入り交じった囂中、40才になって初めて家族を持ちたいと願い、若く美しい妻を娶った父は、どれだけ生きる喜びを見い出したことだろうか。

父は母の実家に隣接する寺で、寺内大吉氏や若き堤清二氏らと親交を温める。出会いはそれだけではなく、寺のご住職は母をも引き合わせた。己の力だけを信じ、駆け巡っていた父は、母と一緒になれた喜びをこの「少年の日の仏陀」で現した。仏の導きを得た父の、信仰そのものの作品であった。

昭和23年の暮れに、作品の前で二人は写真を撮っている。父の眼は決意に充ちていて、18才歳下の母はまるで夢みる乙女のようにだ。

セピア色のこの写真をみた時「父も夢みた、母もみた」あの青い山脈の一節が、ふと頭をよぎった。

この年から始まった二人の長い人生は、心を結び手を携え合つて金婚式を迎え、卒寿展も開催した。

父を見送った母の願いはたった一つ、自分への想いが描かれたこの作品に再会できることだった。

宇一誕生一〇〇周年の記念展に、思いがけずこの作品が七戸に帰ってきた。60年間の母の歴史と同じように、この絵も八戸で幸せな日を過ごしていた。その作品を前に母は抱きつかんばかりに喜び、ただただ涙していた。

母の最後の願いを叶えてくれた神仏に深く感謝しながら、私は父の強い意志を感じた。

七戸町立鷹山宇一記念美術館
館長 鷹山 ひばり

「会報」第50号に寄せて

皆様のご支援に感謝し、更なる会報の充実を！



変わらぬ
ご支援を

会長 盛田駿造

会報が第50号を迎えました。平成7年1月15日に第1号を発行してから数えて13年2ヶ

月になります。これも会員の皆様、美術館の全面的ご支援の賜と、厚く感謝申し上げます。

会報発行の継続には幾多の危機がありました。第一に編集体制の未確立でした。その為、第8号と第9号は合併号（平成9年12月15日号）となりました。そして、このことを教訓として編集体制を確立し、以後年4回発行の定期発行を継続して、今

日に至っております。

第二に脆弱な財政基盤です。会員数、会費収入に見合わせ会報の発行部数の負担は大きく、このままでは財政破綻に陥る危険が大であります。山本前会長のもと役員全員で話し合い、①会員の増強に取り組み、②会報発行部数は千部とすること、年4回の定時発行の励行等組織強化、財政基盤の確立に努めました。その結果第50号まで来ました。

この間、鷹山宇一先生のご逝去の時には直ちに臨時号（平成11年10月25日）、設立10周年には記念号（第37号平成16年12月15日）を発行致しました。今又、第53号で「鷹山宇一先生百年記念号」を計画しております。このように会報が多く危機を乗り越えて継続できたのは、会員の皆様の変わらぬご支援を始めとして、美術館に関わる方々の応援があったればこそであります。

この第50号を一里塚として、百号、百五十号へと、会員の皆様と共に歩み、美術館との絆は強固なものとなるであります。皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

鷹山宇一記念美術館

友の会の活躍をたのむ

七戸町 盛田 稔

平成6年、鷹山宇一記念美術館の開館直後に設立された同館友の会が、その活動状況を記している「友の会

会報」がこの度第50号を迎えられた。誠に御同慶の至りである。

鷹山宇一記念美術館は、七戸という小さな町の小さな美術館であるが、しかし、この美術館は、長い間父宇一氏の下、二科会事務局に籍を置いた館長鷹山ひばり女史の、太い人脈と素晴らしい企画力。そして、それを支えるために、七戸人有志の方々によって結成された「友の会」の献身的努力とにより、今日、「七戸町に鷹山宇一記念美術館あり」とたたえられるまでに至った。

私は戦時中、中国で偶然見つけた小学校の教科書に「力のあるものは力を出し、銭のあるものは銭を出し、智恵のあるものは智恵を出し、大事を為し遂げよ」とあるのを読み、大きな感動にひたつたことがあったが、この文の最後を「文化を建設せよ」と言い直せば、この友の会の活動にぴったり当てはまる気がする。

まさに、この「友の会の活動」は、真に郷土を愛し、見返りを求めず、持てる力を結集して事に当たれば、目的は必ず達成される事を示したものであり、またかつて「文化の町」と言われながら久しく沈滞しきっていた七戸町に再び文化の灯をともしたものでもあった。

「友の会」の働きこそ、値段のつけられない「無価の宝」である。そのことに感謝しつつ、美術館と「友の会」の今後の更なる発展を祈ってやみません。

（鷹山宇一記念美術館評議員・元青森大学学長）

〈前ページからのつづき〉

特別展のご案内

② 「ヤマタネ所蔵作品による『日本画名品展』(仮題)

青森放送株式会社開局55周年を記念して、「日本画名品展」を開催いたします。

春・夏・秋・冬、四季折々の美しい自然や風景は、古くから多くの画家たちを魅了し、絵画や工芸に美しく表現してきました。季節ごとの草花や樹木、山野を駆け巡る動物たちや季節とともに装いを変える人々など、日本画の世界には、我が国の豊かな風土から生まれた日本ならではの「美」があらわされています。

本展では、各時代の芸術家たちがこれをどのように捉え、その美をどう表現しようとしているかを検証しようというもので、近・現代の充実した日本画コレクションで知られる「ヤマタネグループ」所蔵作品から、選りすぐりの名品を一堂にご紹介いたします。横山大観から牧進まで、明治・大正・昭和そして平成と、「一度は見たかったあの画家」の名品たちに必ずやめぐり合うことができるでしょう。格調高い日本画の世界を、存分にご堪能いただけましたら幸いです。「芸術の秋」ならではの豊かな時間をこの「日本画展」では是非お過ごしください。皆様のご来館を心からお待ちしております。

③ 第68回国際写真サロン展 第6回女性写真公募展

当館恒例の特別展「国際写真サロン展」は、写真表現の可能性に挑戦し、プロ・アマ、国内外を問わず応募できる、全日本写真連盟主催の写真コンテストから、入賞作品全130点を紹介するものです。また併催して、全日本写真連盟関東本部管内の女性会員をはじめ、この地域の一般女性を対象に作品を公募する「第6回女性写真公募展」から入賞作品50点を紹介いたします。

④ 第8回鷹山賞児童作品展 第8回地球環境世界画コンクール優秀作品展 併催/キッズアートワールド大連2008

郷土の画家・鷹山宇一がそうであったように、感性が培われる大切な要素の一つに子どもの時代の環境や風土があげられます。青森県南部地方小中学校児童生徒に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」は、新しい時代を担う子どもたちに、制作体験を通して豊かな感性を養い、自由な創造の喜びを味わってもらえたらと願って開催する絵画コンテストです。本展ではその入賞・入選に選ばれた作品を展示するとともに、併せて、財団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワークが主催する、世界各国の子どもたちに「地球環境」をテーマに作品を公募した絵画コンテストから優秀作品を紹介します。また、NPO法人アートコアあおもりが主催する中国大連市の子どものたちによる絵画展も同時開催いたします。

子どもたちのための
ワークショップから
Report!!

いちょうこくらぶ
あ〜っと!くらぶ

「美術館いちようこくらぶ」からは、3月1、2日に行った『イチヨウの絵本ができたまで』の様子をご紹介します。



講師には、画家(二科会会友)で絵本の挿絵を手がけ、女子美術大学非常勤講師でもある永田治子先生を招聘しました。今回の活動は、1年間の活動の様子を1冊の本にまとめるという「紙絵」づくりに取り組む。一日目はその「表紙に、動物と仲よしの木や、ジェットコースターの木など、さまざまなお木が生まれました。二日目は、いよいよ「本」の形をつくります。写真を印刷した紙をぎゅちり半分にたたみ、のりづけをしてペラペラめくると気分はわくわく。表紙



は絵をカラーコピーし、ハードカバーにするためのボール紙を包んであげます。世界にたった一冊のアルバム絵本が完成しました!

「美術館あ〜っとくらぶ」からは、2月9日、3月8日に開催した「お部屋に飾る版画をつくらう」の様子をご紹介します。講師は元奥入瀬小学校校長の藤谷芳雄先生です。



今回はいつもの木版画ではなく、ゴム板を使った版画に挑戦です。大人の参加が多かったこともあり、題材は「静物」としました。自分の家に飾ることを頭においての作品制作。フルーツ模型を参考に配置を思い浮かべ、下絵を描きました。いざ彫ってみると、木とは全く異なる彫り心地。サクサクッと気持ちよくなります。釘で打つたりするなど、ゴムならではの技法も。完成した版画は、同じフルーツでもみんな違う、それぞれの力が完成しました。

藤谷先生、一年間ありがとうございました。



鷹山ひばり館長「第60回東奥賞受賞祝賀会」が開催されました

●●●●● 平成20年2月3日(日) / 盛田旅館において ●●●●●

先号の会報でもお伝えしましたとおり、東奥日報社が産業・学術・文化など各分野で活躍し、青森県の発展に功績のあった人や団体に贈る「第60回東奥賞」に、当美術館の鷹山ひばり館長が選ばれましたことは、大変栄誉あることであり大きな喜びであります。このほど、鷹山館長の功績を讃え、「鷹山ひばり館長第60回東奥賞受賞祝賀会実行委員会」の主催により祝賀会が開催されました。当日は美術館関係者はもとより、鷹山館長のご友人等約90名が町内外から集い、受賞を祝いました。



▼七戸町長・福土孝衛様よりご祝辞を頂戴しました

▼祝賀会に出席されたお母様と、目に涙を浮かべ受賞の喜びを分かち合っておられたお母様の姿が印象的でした。



▲青森県副知事・蝦名武様よりご挨拶を頂戴いたしました
友人代表として三村三千代様よりご祝辞を頂戴しました▶



* * * * *

博物館実習レポートから

当館では平成19年度2名の実習生を受け入れました。実習を終えての感想を代表して奥山庸子さんにレポートしていただきました。

〈博物館研修を終えて〉

日本大学芸術学部美術科4年
奥山 庸子

2007年の夏、鷹山宇一記念美術館で、2週間研修を受けました。大学内で博物館の理論についての講義は3年間様々な角度で受けてきましたが、実習となると、見ると聞くでは大違いとよく言いますが、本当に大違いでした。

まず春、私たち4年生は博物館学の先生に「2週間研修を受け入れて貰える所を探せ」と言われ、春休みのうちに私はここにしようと思われ、鷹山館長に2つ返事で許可を貰えたのですが、休み明けに学校に行ってみると、2週間の研修を受け入れて貰えたのはなんと私一人だけでした。どうやら実際2週間も受け入れるのは厳しいみたいで、どこの館も1週間が限度のようでした。そんな中、みっちり2週間受け入れてもらったことを本当に感謝しています。

学校では先生に物を大事に、慎重に扱うことが一番大事だと言われてきましたが、実際に研修を受けてみると、そ

博物館実習について

美術館や博物館で資料の収集、保管、展示普及、調査研究、その他これに関連する事業についての専門的事項をつかさどる学芸員は、大学などにおいて所定の科目の単位を修得することが必要で、「博物館実習」は必修となっています。

その節は大変お世話になりました。気持ち良く引き受けてくださった鷹山館長、指導してくださった大池学芸員を始めスタッフの皆様ありがとうございました。

れもとても大事な事だとは思ったのですが、それ以上に人とのコミュニケーションが大事だなと感じました。これは学芸員という仕事だけにいえることではないのかもしれませんが、美術館の職員の方々はもとより、来館者、地域の人々、いろいろな面でコミュニケーションの大切さを感じる機会がありました。これは実習しなければわからなかったことなので、博物館研修に行つて私はよかったですと思いました。



▲「やなせたかしの世界展」会期中の実習ということで、お客様とのコミュニケーションが重要となる監視活動を主に行いました。

美術館日誌

【12月】

- ▼1日/鷹山館長「第60回東奥賞」贈呈式(ホテル青森において)
- ▼4日/町立七戸小学校1年生児童、引率教員63名様、同校6年生児童、引率教員63名様ご来館
- ▼8日/あつとくらぶ「木版画で年賀状」開催。鷹山館長、青森市出張青い森ファウンド中間報告会、公開審査会、アラスカ会館において講演
- ▼9日/鷹山宇一先生誕辰記念日「遊蝶記」。無料開館実施。遊蝶記の集い開催
- ▼11日/火曜サロン開催。美術館電気設備定期点検(佐藤電気)。美術館スタッフ定期打合せ会議開催
- ▼14日/鷹山館長、新幹線七戸駅開業事業実行委員会観光振興部会設立総会へ出席(七戸町商工会)。美術館消防設備定期点検(昭和電気)
- ▼15日/七彩色油絵教室開催
- ▼16日/いちようっ子くらぶ「さんなんを食べよう」開催
- ▼18日/佐伯、七戸町地域教育推進協議会へ出席(七戸庁舎)
- ▼19日/佐伯、新幹線七戸駅開業事業実行委員会観光振興部会会議に出席(七戸庁舎)
- ▼20日/鷹山館長、東京都出張(二科会)前理事長・鶴岡義雄先生(弔問)
- ▼21日/鷹山館長、ね仙台市出張(東北美術館会議出席)
- ▼23日/友の会会報49号発送作業。当財団役員懇談会開催(杉屋敷奥山)
- ▼26日/当美術館ホームページ製作打合せ(Jサポート)
- ▼30日/年末年始休館(新年1月2日迄)

【1月】

- ▼3日/美術館仕事始め
- ▼4日/鷹山館長、七戸町新年祝賀会に出席。鷹山館長、東奥賞受賞祝賀会実行委員会第1回打合せ会議開催
- ▼7日/鷹山館長、青森市出張(青森テレビ新年会出席)
- ▼9日/青森放送株式会社営業推進室長・時苗伸市様ご来館(日本画名品展打合せのため)
- ▼10日/鷹山館長・大池、八戸市出張(帆船美術館開館式典出席)
- ▼11日/佐伯、新幹線七戸駅開業事業実行委員会観光振興部会会議に出席(七戸庁舎)
- ▼13日/鷹山館長、七戸町七戸地区成人式に出席(柏葉館)
- ▼16日/当美術館ホームページ製作打合せ(Jサポート)
- ▼17日/鷹山館長、七戸ロータリークラブにて講話
- ▼19日/友の会役員会、新年会開催(杉屋敷奥山)
- ▼20日/七彩色油絵教室開催
- ▼21日/鷹山館長、青森放送株式会社相談役奈良和磨様告別式に参列
- ▼23日/七戸町役場企画財政課、美術館・物産館役員を対象に新幹線七戸駅周辺整備について説明会を開催(美術館2階工房において)
- ▼25日/鷹山館長、青森市出張(生涯学習審議会出席)
- ▼26日/あつとくらぶ「お部屋に飾る木版画を祝ろう」開催。鷹山館長、東奥賞受賞祝賀会実行委員会第2回打合せ会議開催
- ▼27日/第7回鷹山賞児童作品展最終日
- ▼28日/佐伯、東京都出張(新幹線七戸駅開業観光部会研修会、30日迄)
- ▼29日/展示替え・館内整備のため臨時休館(2月8日迄)。鷹山館長、青森市出張(RAB番組収録)。当美

【2月】

- ▼3日/鷹山館長第60回東奥賞受賞祝賀会開催(盛田旅館)
- ▼7日/絵馬懇談会開催
- ▼9日/常設展「鷹山宇一の世界展・ペイン民芸資料館臨時休館」開催。スーとくらぶ「お部屋に飾る木版画を作る」開催。鷹山館長、七戸まける日雪像コンテスト審査
- ▼10日/鷹山館長、七戸まける日雪像コンテスト授賞式出席、講評
- ▼11日/東北町水喰分館33名様ご来館
- ▼15日/ぷりずむ佐藤史隆様ご来館(「あもり草子」鷹山宇一特集号打合せ)
- ▼17日/七彩色油絵教室開催
- ▼18日/当財団平成20年第1回理事會、評議員会開催
- ▼20日/鷹山館長・大池、青森市出張。館長JAF会議出席、鷹山宇一先生誕百周年記念展打合せ(ほか)
- ▼21日/鷹山館長、警察友の会総会出席(盛田旅館)
- ▼26日/鷹山館長、青森市出張(生涯学習審議会出席)
- ▼27日/鷹山館長、東奥賞受賞祝賀会実行委員会第3回打合せ会議開催
- ▼28日/当美術館ホームページ製作打合せ(Jサポート)。鷹山宇一先生誕百周年記念事業実行委員会常任委員会
- ▼29日/いちようっ子くらぶ「いちようの絵本を作ろう」講師・永田治子先生ご来館(3月2日迄)

絵画購入資金の募金のお願

七戸町立鷹山宇一記念美術館は、平成6年の開館以来、県内外より広く多数の来館者が訪れる美術館となりました。

今日、地方自治体が大変厳しい財政運営を強いられているなか、七戸町の深いご理解のもとに美術館運営がなされ、又、平成10年より展示作品収集のために基金積み立てをされて参りました。

本年、鷹山宇一先生誕百年の記念すべき年を迎えるにあたり、七戸町にはこの基金を活用し作品取得をお願い申し上げました。そして又、左記の計画で募金を募り、作品購入費の一助として基金に充当し、美術館の更なる充実と発展を支援していきたくと望んでおります。

どうか皆様方には、私共実行委員会の意のあるところをお汲みとりくださり、募金にご協力を戴けますようお願い申し上げます。

- 募集期間 平成20年3月1日～平成20年12月末日まで
- 申込方法 一口一、〇〇〇円(何口でも有難く拝受いたします)
- 問合せ先 七戸町立鷹山宇一記念美術館内「鷹山宇一先生誕百周年記念事業実行委員会」
電話0176(62)5858

鷹山宇一先生誕百周年記念事業実行委員会
会長 青山 浄晃

会報第50号に寄せて

東京都 北川 フラム
(アートディレクター)



北川フラム氏(HPより)

七戸には久しく伺っていない。会報の記念写真で僅かに青山浄晃さんや旧知の方々の消息を知るだけであり、私という人間の、かすかな良い部分を育ててくれたその土地との繋がりを何としても残しておきたいと思うのだが。

とは言っても私は東京にいるわけではなく、良く言えば東奔西走、正しく言えば貧乏暇なしなのだ。仕事の内容は主として芸術、文化による地域づくりなので、青森や十和田の美術館の話が頭上を通り過ぎ、青森県からの話がないのはよい便りなのかもしれない。地域格差が問題になるように、地方の実態は国家による棄民ではないかと思われるほど、深刻である。七戸はどうなのだろうか？

私がかかわっているのは越後妻有、徳島県の上勝という中山間地の他、岡山県津山市、新潟県上越市高田等の市、地域、その他は大阪、新潟市、瀬戸内海などで、それらは芸術、文化によって地域固有の時間をあきらかにし、地域に誇りを取り戻し、もってその独自性を発信しようとするものだ。この国は危ない、地域も要注意だ、とのなかで、それぞれの地域はまったなしの状況にある。

すべてが経済的効率によって計られる傾向にある時、美術のもっている身体性、自然につながる生理、五感を解放する働きはとても重要だ。美術館が人間らしい動き方を助ける施設であって欲しいと思ひ、皆さんに会う日を楽しみにしている。

北川氏と七戸町とは青山浄晃氏(財)鷹山宇一記念美術振興会理事(長)との縁で親交があり、「子どもたちのための版画展」を開催後、「ガウディ展」、「アパルトヘイト否」展などを開催しました。又、スペイン民芸資料館展示のスペイン陶器を町に寄贈されました。

代表的なプロジェクトとしてフアイレ立川、大地の芸術祭―越後妻有アートトリエンナーレなどをプロデュース。日本都市計画学会計画設計賞、フランス共和国芸術文化勲章、芸術選奨文部科学大臣賞・美術部門賞など数多く受賞しております。

現在、(株)アートフロントギャラリー代表取締役、女子美術大学芸術学部芸術学科教授、新潟市美術館館長の他、多くの役職を務めている。

友の会会員登録の更新と新規会員登録入会お誘いのお願い

平素、会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有難うございます。

新年度も鷹山宇一記念美術館への応援、特に鷹山宇一先生百年記念事業への協力と会員の皆様方に芸術文化に「一層親しんでいただけるよう研修旅行、講演会などを企画し、微力ながらも文化の振興に寄与していく所存でございますので、各位のご協力をお願い致します。

○友の会事業内容

- ① 県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ② 海外美術館研修旅行(00年スペイン・パリ、04年イタリア、07年南仏・パリ)
- ③ 美術館作品購入基金への協力
- ④ 鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤ 会報の発行
- ⑥ その他(美術講演会の開催等)

○一般会員 年会会費3千円

特典

- ① 無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
- ② ミュージアムグッズ1割引
- ③ 研修会、講演会への招待、優待
- ④ 他美術館等の視察研修への優待参加
- ⑤ 会報の配布

○特別会員

年会会費1万円

- ① 一般会員特典に加えて
本人証提示により個人・法人会員とも
本人及び同伴者1名まで無料入館
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

年会会費2万円

- ① 一般会員特典に加えて
本人証提示により個人・法人会員とも
本人及び同伴者3名まで無料入館
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈
- ③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

お知らせ

★鷹山宇一先生百年記念事業協力のお願ひ

鷹山宇一先生の生誕百年という記念の年を迎え、記念事業実行委員会より協力依頼がありました。

会員の皆様には、美術館絵画購入資金の充実にご協力いただきたく、お願ひ申し上げます。

★海外研修のお知らせ

平成9年春に故宮博物院をメインにした台湾美術紀行を企画中です。お楽しみに！

編集後記

★平成7年1月に創刊した会報も第50号を迎えました。

3号で終わらないよう初代編集長が原稿集めや編集に苦勞し、コンピュータと格闘していたことを思い出します。

★平成20年、今年も友の会事業へのご参加をお願ひします。(E・T)

鷹山ひばり館長第60回東奥賞受賞祝賀会 友の会盛田会長より花束贈呈

平成20年2月3日、晴天に恵まれた佳き日に、七戸町立鷹山宇一記念美術館鷹山ひばり館長の第60回東奥賞受賞祝賀会が関係者90名が出席のもと、七戸町の盛田旅館で盛大に開催されました。

友の会からは、盛田会長始め役員が出席し、館長をお祝いしました。



友の会盛田会長より花束贈呈

鷹山ひばり館長は平成11年に館長就任後、良質な企画展などで地域の芸術・文化の発展に貢献してきた功績が評価されて、鷹山宇一先生と親子2代の東奥賞受賞となりました。今後も私達に感銘を与える素晴らしい企画に期待しております。



謝辞を述べる鷹山ひばり館長

おすすぬ美術館

関根正三、ウイユス、斎藤清のコレクション「福島県立美術館」

福島県信夫山の麓、6万㎡超の広大な敷地に県立図書館と併設された「福島県立美術館」をご紹介します。



福島県立美術館（HPより転載）

JR福島駅で私鉄飯坂線に乗り換え、又は1000円バスで県立美術館前下車。市内であることを忘れさせる、イチヨウとケヤキ並木の通りを進むと、信夫山を後に控えた広大な敷地に、右に県立

図書館二つをつないでレストランの建物、れんが調で統一されて目の前に、ドーンと飛び込んでくる。その建物の重厚さに圧倒されながら、美術館の第一印象は、板張りの広々としたエントランスホールが迎えてくれる。館内には国内や海外の作品や、県内出身者の絵画、版画などが展示されている。美術館の周りには、広々とした芝生や庭園が整備され、信夫山を借景に疲れを癒してくれる。又連絡通路で繋がっている

福島県立美術館利用案内

開館時間：9:00～17:00（入館16:30まで）
 休館日：毎月曜日（祝祭日を除く）
 祝祭日（土・日にあたる場合は開館）
 入館料：一般260円（企画展は別料金）
 車で：福島飯坂1.Cより約10分→徒歩2分
 電車で：JR福島駅下車→バス又は私鉄飯坂線→県立美術館前下車→徒歩2分
 電話：024-531-5511

象に残る美術館である（Y・O）
 物や環境が、強く印象に残る美術館である
 展示作品以上に建物や環境が、強く印象に残る美術館である
 象に残る美術館である（Y・O）